J-HPH Newsletter

No.24 NOV. 2023

日本 HPH ネットワーク事務局
〒812-8633 福岡市博多区千代5丁目 18-1
千鳥橋病院内
TEL：092-641-2761(代表)
office@hphnet.jp
https://hphnet.jp

Photo: HIROTA Norihiro

第 29 回国際 HPH カンファレンス 2023 報告

「WELL-BEING 志向のヘルスケアへのヘルスプロモーションの貢献 追悼 ユルゲン・ペリカン氏」

2023 年 9 月 20 日（水）～22 日（金）

会場：オーストリア ウィーン大学（ハイブリッド開催）

概要報告

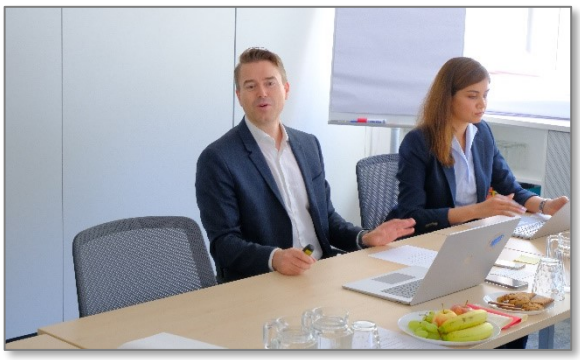
9月 20 日（水）から 22 日（金）の 3 日間の日程で、オーストリアのウィーン大学コンピュータサイエンス学部で開催されました第 29 回 HPH 国際カンファレンスに参加しました。コロナ前の 2019 年のワルシャワ大会（2019 年 5 月）以来、実に 4 年ぶりの対面による会議となりました。今回はウイズ・コロナのこともあり当初から現地での参加者は200名に限定され、それ以外はオンライン参加による初めてのハイブリット形式での開催となりました。J-HPH からは通訳、事務局を含めて 17 名とそのご家族も参加されました。第29回国際カンファレンスは、コーディネーターワークショップ（別会場）、5つの本会議、ミニオーラルセッション、ウィーン市庁舎にある老舗レストランでのカンファレンスディナーが催されました。以下に会議の概要についてご紹介します。

20日の午後にオーストリア国立公衆衛生研究所の会議室で開催されました HPH 加盟国のコーディネーターによるカンファレンスには、舟越光彦（J-HPH コーディネーター・福岡医療団）、近藤克則 J-HPH 顧問（千葉大学 予防医学センター 教授、第 30 回国際 HPH カンファレンス プログラム委員長）、結城由恵（J-HPH 運営委員・西淀病院 副院長）、廣田憲威（J-HPH 監事・大阪ファルマプラン 理事）、佐藤ゆき氏（通訳）が参加しました。会議は台湾や香港の海外のコーディネーターともオンラインでつなぐハイブリットで行われ、ヘルスプロモーションの大御所のイローナ・キックブッシュ氏も参加されておられました。

会議では、オリバー・グローン氏（国際 HPH ネットワーク事務局 CEO）から、国際 HPH ネットワークの現状や各タスクフォークの到達について報告されました。

目次

第 29 回国際 HPH カンファレンス 2023 報告・・・1
概要報告
参加者報告
国際 HPH ネットワーク TOPICS ・・・・・・・・・・・・・・5
第 30 回国際 HPH カンファレンス 2024
加盟事業所の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
勤医協札幌病院
下越病院
京都民医連中央病院
福島生協病院
加盟事業所数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
日本 HPH ネットワーク TOPICS ・・・・・・・・・・・・9
第 8 回日本 HPH ネットワーク総会報告
日本 HPH ネットワーク顧問・役員
第 30 回国際 HPH カンファレンス日本開催協賛のお願い
第8回 J-HPH カンファレンス 2023



各国の取り組み紹介では、結城氏より西淀病院で取り組んでいる入院時の SDH チェックリストの活用や、健康友の会と共同したスクエアーステップの活動などについて紹介されました。最後に近藤克則氏からは、来年広島で開催を予定している第 30 回国際 HPH カンファレンスに向けて組織委員会で議論されている「Scope and Purpose（範囲と目的）」について紹介され、参加者から大きな賛同を得ました。ちなみに、来年の国際カンファレンスのテーマは「Health equity を推進するヘルスプロモーション」です。

1986 年、WHO によるオタワ憲章により医療機関の新しい役割としてヘルスプロモーションが位置づけられたのが HPH です。オーストリアのウィーンには WHO の関連機関もあることからウィーンの病院で HPH の実践が開始されました。その先頭に立って奮闘されてこられた中のお一人にユルゲン・ペリカン博士がおられます。彼は、病院と医療におけるヘルスプロモーションのためのWHO協力センターの創設者で（1992年）、国際HPH運動の立ち上げの主導的人物かつHPH国際カンファレンスの科学委員会の委員長も務められてきました。今回の第29回国際HPHカンファレンスの準備のさなか2023年 2 月11日急逝されました。今回の国際カンファレンスでは、初日の開会式の中でペリカン博士を追悼する企画が設けられ、参加者全員で黙とうを捧げた後に、彼の下で働いておられたペーター・ノヴァク氏よりスライドを交えてペリカン博士の業績が紹介されました。この企画にはペリカン博士のお嬢様も参加されておられ、日本から参加した尾形和泰氏（J-HPH 運営委員）よりお嬢様に花束が贈呈されました。

後日談ですが、帰国の日の早朝に尾形氏はペリカン博士のお墓参りに行かれたそうですが、残念ながらお墓は見つからなかったとのことでした。

今年の国際カンファレンスの範囲と目的は、「Well-being 指向の医療におけるヘルスプロモーションの役割と追悼ユルゲン・ペリカン氏」でした。閉会式では舟越氏より、来年広島で開催する第30回国際HPH カンファレンス 2024 の内容と会場について詳細に報告され、多くの国からの参加を呼びかけられました。

以下、紙面の都合上、本会議のテーマと特徴的な口頭発表についてご紹介します。

本会議1：医療現場における健康的な労働力の確保と維持のためのヘルスプロモーションの機会と課題。

本会議2：気候変動の緩和と適応へのヘルスプロモーションの貢献。
本会議3：危機のときとその後のための患者・家族・地域社会のエンパワメント。
本会議4：公衆衛生の原動力としてのプライマリ・ヘルスケアと病院のパートナーシップ。
本会議5：ウェルビーイング指向の医療の柱としてのヘルスプロモーション。

口頭発表では、日本の大野義一朗医師（天売診療所・前 東葛病院）と岡部敏彦医師（東葛病院）の企画によるワークショップ「戦争が破壊する健康～最良の処方箋は平和～」が企画され、猫塚義夫医師（勤医協札幌病院）がパレスチナとアフガニスタンにおける難民の現状と医療支援活動の経験について報告がなされ、広島共立病院の源勇医師より「被爆者医療～被爆から78年、今も続く原爆の健康被害～」についてオンラインで発表されました。

HPH のタスクフォースのシンポジウムでは、舟越氏から「J-HPH が自己評価ツールを用いて HPH の2020年基準の実施にあたり直面した課題の調査結果」が報告されました。また舟越氏は台湾のネットワークが企画されたワークショップ「ヘルスケア分野における温室効果ガス排出削減の活動内容・理由および方法」のセッションでも報告されました。

ウイズ・コロナということもあり、例年より規模も縮小され、eポスターも会場内のディスプレーでは見られないという制限された環境でしたが、会議の内容はこれまで以上に充実しており、さすがHPH発祥の地であるウィーンでのカンファレンスだと思いました。国際カンファレンスに参加したことで、改めて来年の広島での第 30 回国際 HPH カンファレンス 2024 を成功させるための決意を固めた次第です。

報告：廣田憲威（日本 HPH ネットワーク 監事・
一般社団法人 大阪ファルマプラン 理事・
社会薬学研究所 所長）

第 29 回国際 HPH カンファレンス 2023 抄録集

国際 HPH ネットワーク WEB サイトよりダウンロードいただけます。

https://www.hphconferences.org/vienna2023/

参加者報告

今回、国際 HPH カンファレンスに初めて参加させていただきましたが、非常に刺激的な学会であったと感じました。日本国外の学会に参加すること自体が初めてだったので、日本とは全然違う雰囲気が楽しかったです。例えば、コーヒーブレイクが度々あったり、パーティーが非常に華やかであったり、日本では味わうことができないものをたくさん体験させていただくことができました。日本 HPH ネットワークの先生方との交流をはじめ、各国の先生の講演を聴けたことが自分自身の勉強になり、考えさせられることが多かったです。日本以外の医療体制については全く知らないことだらけで、保険制度やワクチンの状況など、興味深い内容を学ぶことができました。

全ての本会議に参加しましたが、気候変動と健康の関連性が興味深かったです。気候変動は健康リスクを高め、特にフィンランドで問題になっていることを知りました。夏は熱波、冬は寒波に覆われるというのは最悪の事態だと感じます。実際今年の夏は異常な暑さに苦しめられてきたことを実感しました。これからの将来もっと地球温暖化が進んでいってしまうと、それ以上に恐ろしい事態に直面してしまうのではないかと怖くなりました。地球は一つであり、世界中が同じ認識を共有し、対策を考えることが重要になっていると思いました。

また、今回の発表の中で特に印象深かった講演は、猫塚義夫先生の「パレスチナとアフガニスタンにおける難民の現状と医療支援活動の経験」についてです。また直近では 2023 年の 10 月 23 日から支援活動に旅立たれるとのことで、自らの命を顧みず、覚悟を持ってでも戦争紛争で犠牲になる人々の支援活動に取り組まれているというのは、本当にすごいことだと感じました。誰もがやりたがらない危険な支援活動を、猫塚先生は自ら率先して行われており、その行動力に感銘を受けました。

全体を通して、本当に意義のある学会に参加できたと思います。ただ一つだけ残念だと感じたことがありました。それは、提出したポスターが会場では閲覧することができなかったことです。オンライン上で自分自身のスマートフォンやタブレットからのみ観ることができましたが、ポスター会場のようなものがあると思っていたので、少しがっかりしました。

今回の貴重な経験を生かして、来年の第30回国際 HPH カンファレンス2024広島に繋げ、日々勉強に取り組みたいと思います。英語の勉強もしっかりしていきたいです。

報告：和田恵理氏（一般社団法人 泉州メディカ協和薬局）

参加者報告

2023 年 9 月 20 日～22 日ウィーン大学で開催された第 29 回国際 HPH カンファレンスに参加してきました。カンファレンスの内容としては、開会式でヘルスプロモーションとヘルスリテラシーに関する研究により、欧州および国際的な公衆衛生に大きく貢献され、かつ WHO の呼びかけに応じ WHO ヨーロッパ本部であるウィーンで HPH を創始されたユルゲン・ペリカン博士（1940.1.21-2023.11.2）の功績の紹介がされました。新型コロナのパンデミックを経験し乗り越えてきた経過で、改めて病院の危機にはヘルスプロモーション活動の重要性が再確認されたことを講演されました。中でも私が印象に残った講演は「医療現場における健康的な労働力の確保と維持」という内容で、世界の保健医療人材の大幅な減少と、低所得・農村部での深刻な地域格差に関する報告です。COVD-19の流行で医療者自身も命の危険にさらされ、メンタルヘルスの悪化や新たな医療サービスの要求などで疲弊し離職が進むという深刻な内容でした。最前線である病院では重症化患者の緊迫した医療が必要とされ、私自身は保険薬局で勤務していますが、薬局でもコロナ陽性患者が身近にいる環境や感染者との接触に関して現在も緊張が続いています。そのため健康的な職場作りとして燃え尽き症候群やモチベーション低下への対策、共感し寄り添っていける関係性作りのためのリーダーシップが重要であると学びました。

また、本会議2では気候変動の緩和と適応へのヘルスプロモーションの貢献と題し、これまでの経済発展・社会開発は限りある天然資源の搾取という側面

があること、このままでは持続不可能になる可能性があることを訴えられました。オーストリアの取り組みでは気候問題担当マネージャー研修を行い、職員が主体的に行動することが推進されていることが紹介されました。本会議4では公衆衛生の原動力としてのプライマリ・ヘルスケアを強化することで、医療の質を向上や家庭医による予防プログラムがもたらす患者教育の実践やその経済効果などの紹介がされました。

今回の研修を通じて、医療を取り巻く危機感を感じるとともに、帰国後は医療機関と協働し患者教育に取り組むことで保険薬局が実践するヘルスプロモーションとヘルスケアに貢献したいと考えています。

報告：冨士代真希氏（一般社団法人 大阪ファルマプラン あおば薬局）

国際 HPH ネットワーク TOPICS

第 30 回国際 HPH カンファレンス
2024 年 11 月 6 日(水)～8 日(金)
広島市国際会議場

「健康の公正性を推進する ヘルスプロモーション」(仮題)

主催 ：日本 HPH ネットワーク・国際 HPH ネットワーク

第 30 回国際 HPH カンファレンス 2023 は、ヘルスプロモーションを通して公正な医療の実現を目指し、国際的な交流を図るとともに、健康における公正をテーマに多くの医療従事者、研究者とともに深めていく予定です。現在、第 30 回国際 HPH ネットワーク日本組織委員会では、プログラム委員会と国際 HPH ネットワーク科学委員会を中心にプログラムを準備中です。皆様のヘルスプロモーションの取り組みを海外へ広くご紹介ください。演題募集要項等の詳細が決まりましたらWEBサイトに掲載し、HPH 加盟事業所の皆様へご案内します。多数のご参加と演題登録をお待ちしています。

＜お問い合わせ＞
第 30 回国際 HPH カンファレンス組織委員会
事務局（加藤・徳山）
E-Mail：k-katou@hphnet.jp
t-tokuyama@hphnet.jp

加盟事業所の取り組み

公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院

「地域健康課における看護師の 相談活動の取り組み」

勤医協札幌病院では、地域住民の健康増進活動を推進する、医療や介護に関する悩みをすくいあげて受診に繋げ、健康状態や病気の悪化を事前に予防するなどの目的で、2022年地域健康課に看護師が配置されました。札幌白石健康友の会の事務所も併設されており、友の会と一緒に相談活動をおこなっています。

2023年4月以降地域健康課には、友の会、社員、行政などから受診や療養生活上の困りごとなどの相談が 11 件寄せられました。相談内容は、親の認知症をどうにかしたい、施設入所後の転院先を探したい、紙おむつの代行申請をしてほしい、通院に介護タクシーを利用したい、保護費が出るまで友の会からお金を借りたい、1日中部屋の電気が付いたままで中の様子が心配、など多岐に渡ります。2022年に健康友の会で作成した「相談カード」に内容を記載し友の会と情報を共有し、札幌病院の関係部署に助けてもらいながら対応してきましたが、いくつかの事例からは、高齢世帯が困った時にどこに相談して良いか解らず、取り残される状況が垣間見えます。

特徴的な事例として、市内豊平区第1地域包括支援センターから、友の会員で独居の高齢男性の受診相談がありました。「認知機能が低下し受診を勧める

が同意せず。友の会を信頼しているので受診の説得をしてほしい」という依頼でした。早速、友の会事務局長と自宅を訪問、友の会と伝えると快くドアを開けて下さり、生活状況を聞き取ることができました。ご本人は元気で困りごとはないと話されましたが、家の中はものが散乱し靴を履いたまま室内を眼科受診の希望がだされ、保護課へ状況を伝え、札幌病院の眼科外来や地域連携室とつながり、眼科と内科、病院送迎車も予約し保護課職員同行での受診を設定しました。その後、急遽、他院専門外来を受診することとなり、札幌病院の受診にはつながりませんでしたが、行政や病院内の関係部署との連携で、1週間程度で対応できた貴重な事例です。今後も、看護師が配置されている強みを生かし、地域での保健予防・相談活動の実施、独居世帯や高齢世帯への地域訪問、生活困窮者への炊き出し支援などで、健康相談や受診につなげる活動を進めたいと考えます。そのために、行政や地域、友の会・社員と病院をつなぎ、院内の関係部署との連携を強化する役割を果たしたいと考えています。

報告：久保田　良子氏（公益社団法人　北海道勤労者医療協会　勤医協札幌病院　地域健康課）

（写真：勤医協札幌病院地域の方向け学習会の様子・地域保健課　相談訪問の様子）

社会医療法人　新潟勤労者医療協会 下越病院

下越病院は新潟市秋葉区にある261床の病院で健康友の会支部会員数 15,383 人、職員数650人です。2017 年 9 月 1 日、HPHネットワークに加盟し、同時に加盟したかえつクリニックとともに、HPH推進委員会を構成し、HPHの普及・活動の紹介・情報発信を行っています。

地域住民向けの活動は、健康友の会とともに活動しています。2023年度は当院の各部署の特技や特徴を活かした班会メニュー表をもとに、班の要望に応じて職員を派遣しています。

健康友の会の健康づくり・保健予防の運営ボランティアである保健委員がかかわる健康チェックでは、骨密度、血管年齢、体組成、握力等の測定を定期的に実施しています。2022年度からはかえつクリニックと隣接する調剤薬局と協力して、薬局内の地域交流スペースを活用した健康チェックを毎月開催しています。測定は骨密度、血管年齢、体組成、握力等をローテーションしています。

昨今の全国的な課題となっているフレイルについては、健康友の会独自のフレイル予防体操と馴染みのある曲に合わせたリズム体操をセットで考案。専門職が従事できなくても実施できるように体操を DVD化して地域での普及活動を開始しました。早くも多くの地域住民から好評を博しています。

職員向けの活動は、2017年6月から毎月1回HPHニュース発行し現在はNo.72。内容は部署のHPHの取り組みの紹介、「お～い！みんなの昼メシ！」、SDH、病院の階段の数と消費カロリーなど。昨年は職員アンケートで要望が多い「腰痛予防パンフレット」を作成しました。2019 年HPH標語募集、2020・2021 年、HPH大会（部署のHPHの紹介）を開催しました。2022 年からは入職時の研修でもDVDでHPHを学習する機会を設けています。加盟当時33.1%のHPHの認知度は現在 82.1%（目標 85%）まで上昇しました。病院BSCで1部署 1HPH目標を

設定するよう呼びかけ、自主的な取り組みが進んでいます。

（写真上より：下越病院 HPH ニュース・健康友の会と
フレイル予防体操の様子）

報告：長内　耕一氏（社会医療法人　新潟勤労者医療協会　下越病院　事務次長）

公益社団法人 京都保健会
京都民医連中央病院

「赤ちゃんにやさしい」を重視して ～BFH（赤ちゃんにやさしい病院）に認定されました～

Baby Friendly Hospital（以下 BFH）とは UNICEF と WHO が作成した「母乳育児成功のための10カ条」に沿って母乳育児を支援する病院のことです。日本では当院を含めて61施設が認定されています（2023年8月現在）。当院は前身である右京病院時代から母乳育児を推進してきました。
2017年に新築移転のための院内プロジェクトで、さらなる母乳育児支援をすすめて BFH の認定を受けることを目標としました。コロナ禍で受審の手続きが大きく遅れましたが、医師・助産師・看護師だけでなく、栄養課や薬剤課とも学習や準備を進め、2023年 5 月に訪問審査を受け、8 月に認定されました。
母乳育児には多くの優れた点が挙げられています。栄養を摂るためだけでなく、お母さんが赤ちゃんに免疫を届けることができ、多くの病気から赤ちゃんを守ります。また、「脳は抱っこで育つ」「子どもの脳は肌にある」と言われ、お母さんと赤ちゃんの絆を育むことで、脳の発達を促し、安心感を与えて心の栄養になるとされています。

その中でも私たちは、母乳は赤ちゃんの成長発達において最良であり「赤ちゃんにやさしい」ことを特に重視しています。母乳育児をすすめるためには様々な援助が必要です。産前の乳房・乳頭ケアからはじまり、出生直後からの母児接触、初日からの頻回授乳、赤ちゃんの抱き方、乳頭のくわえさせ方など多くのことを実践しなければなりません。それらの理解を、お母さんの心身の疲労に配慮しながらすすめてゆくことも大きな役割です。

また、母乳育児支援は短期間で終わりますが、一生続く親子関係の基礎をつくることができるものです。コロナで中断していた「1歳のお誕生日会」も久し

（写真左より：京都中央病院 Baby Friendly Hospital（BFH）　認定証を囲んで・誕生会の様子）

ぶりに開催しました。子ども達が元気に成長している姿が、スタッフにはとても嬉しかったです。お母さんの笑顔もたくさん見られました。

京都市での BFH 認定は初めてとなります。BFH の重要な役割として社会への母乳育児推進活動があり、今後は、地域の方むけの「母乳育児講座」を開催するとともに、保健センターとの連携の強化や BFH 認定記念講演会を地域に向けて開催する予定です。地域の方はもとより、行政やいろいろな施設の方々と連携、協働しヘルスプロモーションとしてすすめていきたいと考えています。

報告：中川 洋寿氏（京都民医連中央病院 副院長 整形外科）

広島中央保健生活協同組合
福島生協病院

「経済的支援ツールを活用した3年目職員研修」

広島中央保健生活協同組合では、2020 年より 3 年目の職員を対象に日本 HPH ネットワーク作成、全日本民医連 SW 委員会作成協力の「医療・介護スタッフのための経済的支援ツール」を使用し、研修を行っています。

まず、MSW が「経済的支援ツールの活用」を始める前に、押さえて頂きたいポイントを講義します。

「支援」とは、力を貸して助けること、支える、心を向上させることであることを念頭に置き、経済的な問題をどのように支援をしていくのか学びます。「支援をする」大切な視点として、「人権を守るために必要な社会保障」の視点を持つこと、「個人の尊重」の視点を持つこと、「自己決定」の視点を持つこと、「基本的人権の尊重」の視点を持つことであり、先回りせず、患者様主体で支援することが大事であることを学びます。一人一人が、どんな状態であっても、かけがえのない権利を持っていることを前提に、医療や介護の支援を考えてほしいとまとめます。

講義後は、各自が事前に準備した経済的支援が必要だと感じた事例を、経済的支援ツールを使用し、グループで検討を行います。

最後に「経済的支援ツール」を、気づきとしてのツール又は窓口につなぐツールとして活用してほしい事、「群盲象を評す」の寓話を引用しチーム医療が必要である事をまとめとして終了しました。

研修終了後、参加した職員より、「支援するときに、個人を尊重することや、必要な支援と本人の望みが合っているかなど、必要な視点が沢山ある事が分かった。」「病院なので治療する所とは思っていたが、その方の人生の支援までされているのは驚いたし、感動した。」「適切な社会資源が活用できるように、経済状況を把握できるようアンテナをはっていきたい。」「様々なケースの中で、様々な専門職が関わることで色々な角度からそのケースを見ることができる事を学んだ。自分自身も専門職の一員として見解ができるようこれから業務に取り組んでいきたいと思った。」「職種によって着眼する点が異なったりしていて興味深かったです。支援のための制度を知ることでよりよい支援方法を多職種の方とも協力しながら患者さんに発信・提供できればと思いました。」と感想が寄せられています。

経済的な貧困は病気の原因になります。患者・利用者さんの経済状態を把握し、経済的に困窮している場合は社会資源を活用して支援することの重要性

（写真左より：福島生協病院 経済的支援ツールを用いたグループ検討の様子と3年目職員研修の様子）

を今回の研修で学び、多職種でつながり、日々の業務で患者様主体の支援を実践してくれること期待します。

報告：小阪　晶子氏（広島中央保健生活協同組合
福島生協病院　リハビリテーション科）

加盟事業所数

加盟事業所数

121 うち準会員 2事業所

2023 年 11 月 24 日現在

内 訳：病院 77／クリニック 13／薬局 6／研究機関・ヘルスサービス 28*

＊研究機関・ヘルスサービスには、老人保健施設、法人グループ、準会員を含む。

新規加盟事業所

青森・青森保健生活協同組合あおもり協立病院

加盟事業所一覧

https://www.hphnet.jp/list/list.html

日本 HPH ネットワーク 会員募集

日本 HPH ネットワークでは、HPH コーディネーターワークショップ、ミニ WEB セミナー等会員向けのセミナーやヘルスプロモーションに関する最新の資料、情報を会員の皆様へご案内します。皆様の事業所のヘルスプロモーションの推進と可視化にぜひ HPH に加盟ください。皆様の事業所のヘルスプロモーションの取り組みを国内外にご発信ください。

新規加盟　記入方法・書式

https://www.hphnet.jp/accession/entry.html

会則・会員規則

https://www.hphnet.jp/about/terms.html

日本 HPH ネットワーク TOPICS

第 8 回日本 HPH ネットワーク総会報告 2023 年 11 月 11 日（土）

有明セントラルタワーホール＆カンファレンス

今総会は、加盟事業所120事業所のうち、準会員を除く 118 事業所を対象とし、出席17「事業所、代理委任出席 1 事業所、委任状 100 事業所であり、会則第26条、28条にもとづき定足数を満たしており、成立していることを確認し、議事が進行されました。

第1号議案から第6号議案の全ての議案が賛成多数で可決されました。役員改選により、島内憲夫氏が特別顧問に新 CEO に近藤克則氏（千葉大学 予防医学センター 教授）が提案され、承認されました。

2015 年 10 月の日本 HPH ネットワーク結成総会から 8 年間に渡りカンファレンス、セミナー、研究活動、海外講師の招聘等、当ネットワークの運営にご尽力いただきご教示いただきました島内憲夫氏へ感謝の言葉が舟越光彦コーディネーターより述べられ、CEO 退任にあたり島内憲夫氏よりご挨拶と日本HPHネットワークへ激励のお言葉をいただきました。

日本 HPH ネットワーク顧問・役員

●特別顧問

ドン・ナットビーム;DON NUTBEAM(WHO コンサルタント・シドニー大学公衆衛生学教授・WHO Consultant, Professor of Public Health Sydney School of Public Health UNIVERSITY OF SYDNEY)

島内 憲夫(日本ヘルスプロモーション学会 名誉理事長・順天堂大学名誉教授・医学博士・広島国際大学客員教授・ビューティ&ウエルネス専門職大学 客員教授)

●顧問

相澤 孝夫(一般社団法人 日本病院会 会長)
邉見 公雄(公益社団法人 全国自治体病院協議会 名誉会長)
草場 鉄周(一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 理事長)
渡辺 仁(JA 長野厚生連佐久総合病院 統括院長)
武田 裕子(順天堂大学医学部 医学教育研究室 教授)
中山 健夫(京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授)
髙橋　淳(日本医療福祉生活協同組合連合会 会長理事)
増田　剛(全日本民主医療機関連合会 会長)
近藤 尚己(京都大学大学院 医学研究科 国際保健学講座 社会疫学分野 教授)
鈴木 美奈子(順天堂大学 国際教養学部 准教授)

●役員

<CEO>

近藤 克則(千葉大学 予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授・千葉大学大学院 医学研究院 公衆衛生学 教授・国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部長(併任)・一般社団法人 日本老年学的評価研究機構 代表理事(併任)・日本福祉大学客員教授(併任))

<日本コーディネーター>

舟越 光彦(公益社団法人福岡医療団理事長・千鳥橋病院 予防医学科科長)

<運営委員>

伊藤 真弘(津軽保健生活協同組合 理事長・健生病院)
尾形 和泰(北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院 院長)
福庭 勲(医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院 副院長)
前島 文夫(JA長野厚生連 佐久総合病院 健康管理部長)
結城 由恵(公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 西淀病院 副院長)
根岸 京田(東京保健生活協同組合 理事長)
大矢　亮 (社会医療法人同仁会 耳原総合病院 副院長 救急総合診療科部長)
近藤 尚己(京都大学大学院 医学研究科 国際保健学講座社会疫学分野 教授)

<監事>

廣田 憲威(一般社団法人大阪ファルマプラン 理事・社会薬学研究所 所長)

第 30 回国際 HPH カンファレンス 日本開催 協賛のお願い

第30回国際 HPH カンファレンスを 2024年 11 月 6 日(水)～8 日(金)に「健康の公正性を推進するヘルスプロモーション」(仮題)をテーマに広島で開催する運びとなりました。ヘルスプロモーションを通して公正な医療の実現を目指し、国際的な交流を図るとともに、健康における公正をテーマに多くの医療従事者、研究者とともに深めていく予定です。

加盟事業所ならびに関係各位におかれましては、国際 HPH カンファレンスの趣旨をご理解いただき、ご協賛を賜わりたくお願い申し上げる次第です。

ご協賛の内容につきましては、下記のとおりとさせていただきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。協賛にご賛同いただける方は、組織委員会事務局までご連絡ください。

1. 協賛金額 1口1万円
   病院および団体は5口以上お願いします。
2. 募集期間 2023年6月3日(土)～
   2024年10月4日(金)まで
3. 協賛に関するお問い合わせ先
   国際 HPH カンファレンス日本組織委員会
   事務局 徳山
   E—Mail:t-tokuyama@hphnet.jp

(写真:第 30 回国際 HPH カンファレンス組織委員会
結成総会 2023 年6月 3 日)

第 8 回 J-HPH カンファレンス 2023 「Well-being(幸福)な社会に貢献するヘルスプロモーション～持続可能で公正な社会を目指して～」

2023 年 11 月 11 日(土)13:00～12 日(日)13:00
有明セントラルタワーホール＆カンファレンス

「Well-being(幸福)な社会」とは、生態系の限界を超えることなく、将来の世代にも公正な健康が提供される社会です。しかし、現実には WHO(世界保健機関)も指摘するように、世界は貧困、戦争、気候危機などの直面し、パンデミックは社会の断絶を露呈させ、健康格差を拡大させています。こうした危機に直面して、WHO は「Well-being のためのジュネーブ憲章(2021 年)」を提起しました。

今回のカンファレンスでは、Well-being(幸福)な社会を実現するためにヘルスプロモーションを通してヘルスサービスがどのように貢献できるかを議論します。基調講演ではオタワ憲章の起草を担ったイローナ・キックブッシュ氏とジュネーブ憲章の起草の中心を担った WHO のリューディガー・クレッチ氏による、ジュネーブ憲章の解説を録画にて講演いただきます。終了後、企画の一部をカンファレンス終了後、オンデマンド配信します。

1日目｜2023 年 11 月 11 日(土)13:00～17:40

開会式

基調講演1

「健康格差社会への処方箋～メゾ、マクロレベルのアドボカシー～」

講師:近藤克則氏(千葉大学予防医学センター教授)

基調講演2 (録画・字幕あり)

「Well-being のためのジュネーブ憲章について」

講師:イローナ・キックブッシュ氏(国際開発研究大学院グローバルヘルスセンター長)

講師:リューディガー・クレッチ氏(WHO ヘルスプロモーション局長)

ポスターセッション

2日目｜2023年11月12日(土)9:00～13:00

ワークショップ

WS1「明日からできる地域診断～医療機関を起点として地域を健康にする～」

講師：河口 謙二郎氏(国立大学法人 千葉大学 予防医学センター 社会予防医学 特任助教)

講師：飯塚 玄明氏(国立大学法人 千葉大学 予防医学センター社会予防医学技術補佐員)

WS2「社会的処方実践のヒントを見つけよう」

講師：本田宜久氏(医療法人博愛会 頴田病院 病院長)

報告：石橋 薫氏(公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 看護部長)

WS3「世界の各地で起きている戦争、紛争下における難民の健康状態、医療状況などを知り、我々にどのような支援ができるのかを考える」

講師：小杉 郁子氏(特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 外科医)

報告：長澤 正隆氏(NPO法人 北関東医療相談会 事務局長)

教育講演とSGD

「気候正義とヘルスプロモーションの役割」

講師：桃井 貴子氏(特定非営利活動法人 気候ネットワーク)

報告：西川 昭氏(東京ほくと医療生活協同組合 東京ほくと気候アクションプロジェクト(T-CAP))

報告：熊谷 義純氏(宮城県民主医療機関連合会 事務局次長)

報告：堤 幸春氏(公益社団法人福岡医療団 専務理事)

特別講演

「ヘルスプロモーションの歴史と日本における今後の課題と期待」

講師 ： 島内憲夫(日本HPHネットワーク特別顧問・日本ヘルスプロモーション学会 名誉理事長・順天堂大学名誉教授・医学博士・広島国際大学客員教授・ビューティ＆ウエルネス専門職大学客員教授)

閉会式・ポスターセッション優秀演題表彰

第8回J-HPHカンファレンス2023報告は、次号(2024年2月発行予定)に掲載します。

日本HPHネットワーク
Japan Network of Health Promoting Hospitals & Health Services